今月のトピックス

特集 会社訪問 -No.21
常南通運株式会社 様

「他人の身になって」仕事に真摯に取り組み 会社の新たな歴史を刻み続ける

通運業に端を発し、現在では郵便物から冷凍・冷蔵品まで幅広い製品の輸送を手がけている常南通運㈱（岡野哲也代表取締役社長）。
「会社の発展には従業員一人ひとりの成長が不可欠」と考える同社では、従業員教育に力を入れるとともに、「従業員にとって働きやすい会社づくり」にも果敢に取り組むなど、運送会社としての新たな歴史を刻み続けている。

コンテナによる鉄道貨物輸送からトラック輸送まで、幅広い輸送サービスを提供する同社

■毎日の点呼を通じて安全意識を向上 従業員の品質を高めてさらなる信頼獲得へ

常南通運㈱は昭和 17 年８月に創立し、今年で創業 79 年目を迎える歴史ある運送会社である。同社は通運業からスタートしており、社名の「常南」は、同社が本社を構える柏市を通って東京と宮城県を結ぶ「常」磐線の、取手駅までの「南」側の区間をエリアとしていたことから付けたものである。鉄道貨物輸送最盛期の頃には柏駅前に本社を構えたほか、かつて貨物駅があった馬橋駅付近などにも支店を設けていたが、鉄道貨物輸送の退潮に伴い、同社でもトラック輸送の割合を高めていった。現在は通運業のほか、郵便物から冷凍・冷蔵品まで、幅広くトラックによる輸送を展開。昭和 61 年、流山市内に中央配送センターを開設。そして、平成 15 年には東武アーバンパークライン（野田線）豊四季駅から 300m ほどの場所に本社を移転している。

また、同社子会社として、昭和 42 年８月に設立した常南物流サービス㈱がある。こちらは、設立と同時期に操業を開始したキリンビール取手工場のパートナー企業として、工場構内物流をはじめ、製造補助業務、副産物製造などを行っている会社である。

同社では郵便局間輸送を手がけており、24 時間３６５日車両が稼働している。ドライバーはシフト制で勤務しているため、同社の全ドライバーが一堂に会する機会はない。そこで、安全教育においては日々の乗務前点呼の機会を有効活用し、ドライバーの安全意識向上に繋げている。

管理者は、デジタルタコグラフやドライブレコーダーで取得された毎日の運行データを日々確認。点呼の際に、ドライバーに対してデータを見せながら注意点を具体的に示すなど、安全輸送に向けた的確な指示を行うようにしている。また、事故が発生した際には、点呼の際にドラレコの画像を見せ、注意喚起している。

岡野　哲也　代表取締役社長

また、同社では、安全教育の場としてだけではなく、ドライバーの体調管理の面でも毎日の点呼を重要視している。コロナ禍以降、同社ではドライバーに対して、まず出勤前に自宅で体温を測定させ、点呼の際にも非接触型体温計で体温を測定し、測定結果を記録（37 度以上の場合乗務不可）。さらに、点呼を通じてドライバーの健康状態を管理者が確認し、安全に乗務できる状態であるかどうかを確認した上で乗務させるようにしている。

「管理者とドライバーの意思疎通の場として、当社では点呼を大切にしています。毎日の点呼を通じてドライバーに対して効果的に注意を促したり、点呼の場でドライバーに対して事故事例を横展開することで、安全意識を高いレベルで持続させることができます」（岡野社長）

同社では平成 29 年、千葉県トラック健康保険組合が実施している「健康宣言事業所」の第１号企業として認定を受けるなど、ドライバーの健康対策にも積極的に取り組んでいる。同社では、脳疾

日々の点呼では安全輸送に向けた指示のほか、健康面のチェックも欠かせない

グループ会社の常南物流サービスではビール工場の構内物流業務などを行っている（従業員　280 名）

「他人の身になって」を社訓に掲げ、自社のさらなる飛躍を誓う岡野社長

患リスクの早期発見に繋がる脳ドック健診を、対象となる全ドライバーに対して実施。その結果、令和元年には２人のドライバーから軽度の脳腫瘍が発見され、早期治療により治癒に至ったという。

「安全運行を継続させるためには、ドライバーの健康状態の把握も重要になってきます。当社では脳ドック以外にも、SAS（睡眠時無呼吸症候群）スクリーニング検査なども受診させるなど、健康対策も積極的に進めています」（同）

ところで、子会社の常南物流サービスでは高校新卒生を毎年 10 人程度採用しているが、定着率は高いという。その理由として、入社時教育を教育担当者とのマンツーマンで行うようにし、フォローアップ体制を充実させていることが挙げられるという。また、工場内の作業要員として、障害者の雇用も継続的に実施。令和２年 11 月には、障害者雇用促進法による法定雇用率を上回る雇用を継続してきたこと、また人材の職場定着を進めてきたことなどが評価され、（独）高齢・障害者・求職者雇用支援機構から理事長表彰を受賞している。

同社では、社訓を「他人の身になって」と定めている。同社では、新入社員や障害を持った従業員など、同社で働く全ての従業員が気持ちよく働くことのできる職場環境づくりに腐心してきた。だからこそ、多くの人材の定着に繋がっているということが言えるだろう。

「従業員から愚痴を聞き、相談に乗ったりすることで従業員の当社に対する思いを汲み取った上で、職場環境の改善を実現させていくことが、社長としての最も重要な仕事だと考えています。従業員の幸せ無くして、事業を継続させていくことは決してできません。『他人の身になって』という社是に込められた思いを大切に、社長自らが従業員のために果敢に動くことで、会社を守っていくことができるのです」（同）

現在、岡野社長は千葉県トラック協会の副会長（広報委員長）として業界の健全な発展に向けて尽力しているほか、全国地区通運協会代表理事・理事長などの要職を歴任してきた。

「令和元年に、千葉県トラック協会の広報委員長に就任しました。労働力確保に苦しんでおられる会員事業者も多いなか、若年層をはじめとしたより多くの方にトラック運送業界の真の姿を知っていただくことで、業界のイメージアップを実現させていくために、業界 PR 用リクルート DVD の制作（元年６月）や求人情報サイトへの業界紹介動画の掲載（２年 10 月）、また大人気映画アニメ『鬼滅の刃』が上映される県内５劇場での業界紹介動画の上映（同）など、様々な取り組みを進めています」（同）

最後に、来年で創業 80 年という節目を迎える同社の今後に向けた取り組みについて、岡野社長に伺った。

「当社で働くドライバーの品質を高め続けていかなければ、お客様に信頼していただくことはできません。『常南通運の従業員は頑張っている』とお客様からご評価いただけるように、自分の足元をしっかりと見ながら、堅実に事業に邁進していきたいと思います」（同）

ホットにゅーす

地元サッカーチームを熱心に応援
休日は自身の健康づくりに取り組む

岡野社長の趣味は、地元サッカーチーム「柏レイソル」の試合を観戦することだという。同チームのメインスタジアムである日立柏総合グラウンドサッカー場（三協フロンテア柏スタジアム）の年間予約席を購入し、時間があればサッカー場に赴くほか、選手と一緒に食事をするなど、同チームの選手との交流も深い。

また、従業員の健康対策と同様に、自身の健康づくりにも積極的に取り組んでおり、休みの日にはスポーツジムに通ったり、加圧トレーニングを受けたりしているという。

柏レイソル選手のサインボールを手に、笑顔を見せる岡野社長。同社のカレンダーでも柏レイソルの選手たちが躍動している

企業プロフィール
常南通運株式会社
代表取締役社長　岡野　哲也
千葉県柏市豊四季 250 番地６
従業員　150 人
（ドライバー・一般作業員 115 人）
台数　86 台